

# from **NOW ON** KANSAI

ひとを見つける、ひととつながる  
関西広域連合のビジネス情報紙



**障がいの有無に関わらず意欲を持ち  
戦力として働ける企業を目指す**

～マルホ発條工業株式会社



◀代表取締役社長の岩瀬邦宏氏

## 障がいの有無に関わらず意欲を持ち 戦力として働ける企業を目指す

### 作業過程を変更せず会社の戦力として採用

障害者雇用促進法に基づく法定雇用率の見直しや人手不足などの影響で、障がい者雇用に対する注目は高まっているが、「会社内に適当な仕事があるか」「ノウハウがなく、どう配慮したらいいか分からない」と課題を抱えて雇用が進んでいない企業も多い。こうした中、マルホ発條工業株式会社では、10年以上前から障がい者雇用に積極的に取り組んでいる。

同社は、室温で金属を加工する精密な塑性加工技術が強みに、国内、海外で、ばね事業、機械事業、医療機器部品事業を展開する企業だ。車のエアバックや携帯電話などに活用さ



▲ばね事業部、機械事業部がある同社亀岡工場

### ●プロフィール

マルホ発條工業株式会社

1954年創業。独自の精密加工技術を活かし、各種精密スプリングの製造・販売、各種自動包装机・省力機器の設計及び製造販売、各種医療機器部品の開発及び製造販売に取り組む。拠点は国内7か所、東南アジア・北米6か所。

(本社)京都市下京区中堂寺南町134番地

京都リサーチパーク1号館4階

<https://www.maruho-htj.co.jp/>

れる超精密ばねをはじめ、低侵襲医療に使われるカテーテル、薬剤用のパッキング機械などで、同社の独創的な技術が発揮されている。

京都府立丹波支援学校からの依頼で、採用を前提とした実習生を受け入れたことが同社の障がい者雇用のスタートとなった。拠点が亀岡市や南丹市に集中しており、受け入れているのは通勤可能な地域に住む人がほとんど。現在は、身体、知的、精神合わせ12名(正社員10名、非正規2名)が在籍し、「地域貢献の一環として障がい者の採用に前向きに取り組んでいます。障がいのある従業員のために作業プロセスを変更するといったこともやっておらず、あくまで通常業務の中で当社の戦力として働いてもらっています」と、代表取締

役社長の岩瀬邦宏氏は言う。

採用については、支援学校からの受入れがほとんどだという。人事担当者は京都府の就業支援拠点である京都ジョブパークによる支援学校と企業との交流会などにも参加するほか、まだつながりがない支援学校の見学会などにも積極的に参加している。こまめなネットワークづくりが採用につながるそうだ。中には、職業能力開発校経由で入社した従業員の弟が、「兄から働きやすい職場と聞いており、実績のあるマルホなら安心」と就職を決め、活躍しているケースもある。

### 担当の先輩スタッフが2年間にわたって指導

雇用された人の多くは、ばねを機械製造した後に行う研磨などを中心とした業務を担当している。障がいのある従業員は繰り返しの作業を得意とする人が多く、こうした業務で能力を発揮しているという。初めて作業をする際には時間をかけて丁寧に説明する必要があるものの、それは他の従業員も同じ。障がい者だからといって特別な研修をしているわけではない。

作業マニュアルについては、従来の紙ベースのもののほか、ユニバーサルデザインの観点から動画も作成している。これも障がい者従業員だけでなく、新人をはじめ他の従業員にも分かりやすく便利なツールとなっている。

マニュアルだけではわかりづらい部分もあるため、障がいの有無にかかわらず、新人は担当の先輩従業員が2年間にわたって丁寧に指導する。仕事の進め方だけでなく、メンタル面などについても、この指導員に気軽に相談できる体制が整っている。

### 非正規からスタートし3年以内に正社員に

雇用された人は、職場に慣れてもらうことや、生活リズムを徐々に整えてもらうために、最初は非正規からスタートする。上司の推薦と就労意欲の確認などを経て、早い人なら6か月、遅くとも3年以内に正社員に転換する。

環境変化が苦手な人への配慮から基本的にジョブチェンジはないが、技能が高まり、正社員になることで、仕事に対してやりがいや誇りを持てるようになるという。ただし、ひとりひとりの状況に合わせて、本人と相談の上で配属を変更することもある。能力があっても、それを発揮して仕事を続けられるか



▲働く人の声が職場作りに反映されている

どうかは、その人に適した業務を与えられるかどうかにかかっているからだ。

また、総務のスタッフが毎日工場を巡回しており、困りごとが出てきた時は面談を行うほか、人事担当者による「何でも相談会」も月に数回実施している。さらに専門的なサポートが必要な場合は、京都障害者職業センターや亀岡市にある花の木医療福祉センターなどの機関も利用している。

保護者に説明して社員持株会に参加してもらうなど、本人の勤続だけでなく、支える家族との関係作りも大切にしている。現在のところ採用した人ほぼ全員が仕事を続けており、長い人は勤続10年を超える。障がい者雇用の歴史はまだ長くないので、現時点で管理職に登用されている人はいないが、今後は専門職等としての昇進・昇格も可能性があるという。



▲採用を担当する常務取締役の谷村哲郎氏



▲ばねの研磨作業の様子



▲総務グループマネージャーの湯浅洋喜氏

## さまざまな声に耳を傾け 職場環境の改善につなげる

同社では、以前からダイバーシティ(Diversity=多様性)、エクイティ&インクルージョン(Equity&Inclusion=公平性と受容性)についての研修を実施するなど、誰もが働きやすい職場づくりに取り組んでいる。例えば、ばねを締め付ける際に力が足りないという女性従業員の声が寄せられた際に、補助具をつけて改善したが、これは女性従業員だけでなく男性従業員も楽に作業できるようになり、結果的に従業員全体の作業負荷軽減につながった。さまざまな声に耳を傾けることが、全体の働きやすさにつながっている。そうした社内の方針があったことから、障がい者雇用についても従業員の理解はスムーズで、さまざまなハンデを持った人と共に働くことが、ごく当たり前のこととして受け入れている。

現場の指導員や上司が従業員の働く様子を実際に見て、作業がやり辛そうと感じた場合などは、より快適に作業できるよう使用する工具を変更したり、機械事業部で専用の装置を作ったりして改善を進めている。

「単にダイバーシティ等のテーマを掲げても従業員には実感が伴わない。実際に現場を見たうえで、もっと快適にするためにはどうすればいいのかという発想から企業のミッションとバリューを定めて、それに基づいて日々の業務に取り組んでいます。」と岩瀬社長は語る。

## 誰もが働きやすい職場づくりを目指す

障がいの有無にかかわらず、人間には得意・不得意、できること・できないことがあるので、それを理解し、認めた上で、誰もがもっと快適に作業するためにはどうすればいいのかを考える。目指すのは、「一人ひとりの従業員に自分の得意なことで会社に貢献してもらうこと、より幸せな人生を送ってもら



▲同社の方針を語る岩瀬氏

うことです」と、岩瀬社長は言う。

同社は「京都はあとふる企業」や、「プラチナくるみんプラス」「えるぼし☆みつぼし」の認定を受けている。このような各種優良企業認定等については、取得すること自体が目的となっはいけないが、目標とすることで自社の現状を正確に把握することにもつながるという。障がい者雇用をはじめ、ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンを推進するのであれば、会社として認定取得を検討しても良いのでは、と岩瀬社長はアドバイスする。

同社は今後も、業務の再確認、細分化を進めることで、より良いユニバーサルな職場環境の整備に取り組む方針。直近の課題としては、肢体が不自由で車いすを必要とする人に対する作業環境のバリアフリー化とのこと。大掛かりな改修が必要となるため、なかなか手が付けられていなかったが、今後進めていきたいという。また、AIなどの技術がさらに進化すれば製造業の働き方自体も変化する可能性があるため、最先端技術の導入も検討課題としており、うまく活用することで何らかのハンデがある人も、より働きやすくなるはずと、と岩瀬社長は同社の将来を見据えている。

関西広域連合主催「令和6年度 産業人材セミナー」アーカイブ配信中！

・初めての外国人雇用対策セミナー

・新制度「育成就労制度」について

<https://x.gd/IsFwj> (配信期間)令和7年3月31日まで



関西広域連合 広域産業振興局NEWS

メルマガ会員登録中！

ぜひ、ご登録ください(登録無料)

[kansaisangyotouroku@qt15.asp.cuenote.jp](mailto:kansaisangyotouroku@qt15.asp.cuenote.jp)



広域産業振興局では関西の成長の方向性を示した

「関西広域産業ビジョン」を策定しています！

「アクションプラン」「関西ポテンシャルマップ」「構成府県市リーディングケース」もぜひご活用ください。



関西広域連合 広域産業振興局 公式Instagram

イベント情報発信中です。

フォロー・いいねをお願いします！

@kouiki\_sangyo



〈次号は2月頃発行予定です〉

発行元／関西広域連合 広域産業振興局

〒559-8555 大阪市住之江区南港北 1-14-16

大阪府商工労働部 商工労働総務課内

TEL06-6614-0950 FAX06-6210-9481

E-mail [sangyo@kouiki-kansai.jp](mailto:sangyo@kouiki-kansai.jp)

URL <http://www.kouiki-kansai.jp/koikirengo/jisijimu/sanshin/index.html>

さあ、関西の時代へ



関西広域連合  
UNION OF KANSAI GOVERNMENTS